

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	十三地区地域水産業再生委員会
代表者名	工藤 伍郎

再生委員会の 構成員	十三漁業協同組合、五所川原市経済部農林水産課水産室、西北地域県民局地域農 林水産部鱈ヶ沢水産事務所
オブザーバー	

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	(地域の範囲)：五所川原市市浦地域 (漁業の種類)：シジミ漁業20名
-------------------	---------------------------------------

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

五所川原市十三地区は、一級河川岩木川水系の下流域に位置する湖で日本海から流入する海水と淡水が混じり合う汽水湖である。同地域では、昔からシジミ漁が盛んであり基幹産業として発展してきた。また、国内のシジミ漁業が水質、生息環境の悪化により衰退している中、資源管理やブランド化、地域活性化に向けて取り組みを行ってきた。しかし、近年、魚価安や外国産シジミの輸入、燃油等の漁業コストの高騰により、漁業所得が不安定であることから、安定した水準を維持することが急務となっている。

(2) その他の関連する現状等

漁業所得の安定を図るため、安定価格で販売できる冷凍しじみ等の商品開発・製造販売体制の構築を図ることが急務となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

当地域のシジミ漁業所得の向上を図るため、以下の対策を行う。

- ①シジミ漁業者と十三漁協は漁期（4月～10月：その他時期は禁漁）におけるシジミの価格安定と漁期以外の時期の出荷量の確保に向けた冷凍シジミの製造・販売の体制を構築。
- ②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」シジミ漁業を推進し、「マリン・エコラベル・ジャパン」認証を継続して受け、シジミ資源維持・管理やブランド化、販路拡大活動を推進。
- ③シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノット減速走行、省エネ機器設備（エンジン）を導入。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

十三湖のシジミ漁業は、「マリン・エコラベル・ジャパン」の認証（平成21年認証）を受けるため、シジミ漁業の管理体制（漁期・漁場・操業者・漁獲量・漁具・漁法の制限）・シジミ資源持続維持（十三・車力内水面漁場管理委員会の設定、（地独）青森県産業技術センター内水面研究所・西北地域県民局地域農林水産部鱈ヶ沢水産事務所とのシジミ資源量調査やシジミラーバ調査の実施）、十三湖の生態系への配慮（（地独）青森県産業技術センター内水面研究所・西北地域県民局地域農林水産部鱈ヶ沢水産事務所との水質・底質調査、シジミ漁業者による植林、漁場耕運作業、湖底清掃、シジミ移植作業）を行っている。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①十三漁協とシジミ漁業者は、これまで禁漁期である11月～3月は荷受業者等（県漁連、県内外スーパー、生協店舗）に対して「冷凍シジミ」を約100～200kg/年程度出荷するにとどまっていた。しかし、当該時期の購入を望む消費者の声が大きいことから、漁協は消費者ニーズの把握に努めつつ荷受業者等の意向を確認の上、「冷凍シジミ」の出荷割合を増やすこととし、年間50トン（年間生産量の約5%）の製造・販売を目指し、製造・販売体制の確立を図るべく、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者は、取扱い量が増大することで負担が大きくなる中、「冷凍シジミ」の品質を向上させるため、漁協と協力し講習会を開催し、シジミの死貝や空貝について貝の色等による識別訓練を実施することで、効率かつ確実な選別作業に努める。 ・十三漁協は金属探知機やX線装置を導入し、異物混入した「冷凍シジミ」の選別作業の効率化に努める。 ・十三漁協は冷凍シジミの「砂出し」作業を行う際に、シジミのうまみ成分等を保持するため、独自に考案した畜養海水（殺菌海水と真水の混合水を用いて塩分濃度1%とする）を活用するとともに、「砂出し」作業中の酸欠やシジミの排泄物（アンモニア）によるシジミのへい死を防ぐため、新たに網目状の容器（網やザル等）を使用することで容器の底からシジミを離すなど、「砂出し」作業の効率かつ確実な手法の構築を図る。 <p>なお、「冷凍シジミ（760円/kg）」は通常の「生鮮シジミ（339円/kg）」に比べ単価が高く取引されることから、所得の向上が期待される。</p> <p>②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」漁業との理由で「マリン・エコラベル・ジャパン」からの認証を受けていることを消費者にPRしていくことで更なる消費拡大を図るべく、販売戦略を定め、以下に示すシジミの資源維持・管理やブランド化、販売促進と地域活性化の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者と十三漁協は（地独）青森県産業技術センター内水面研究所や西北地域県民局地域農林水産部鰯ヶ沢水産事務所の協力得て、十三湖のシジミ資源量調査や十三湖の水質・底質調査、シジミラーバ調査を実施し、シジミの漁獲を調整することにより資源維持・管理に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は湖底耕運作業や湖底清掃、シジミ移植作業を実施し、十三湖の環境保持に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は県内外のスーパーや生協等での「トレーサビリティシステム」と「マリン・エコラベル」の説明会や地元学校での食育活動、都市住民との交流会を積極的に実施し、十三湖産シジミのブランド化と販売促進に努める。 ・十三漁協は県漁連や県関係機関と連携し、シジミの販売促進のため県内外のスーパーや生協、東京都や新潟市、仙台市、札幌市等の中央卸市場へ出荷・販売を積極的に実施し、販路拡大を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノットの減速走行による燃料費削減に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①シジミ漁業者と十三漁協は引き続き消費者ニーズの把握に努めつつ荷受業者等の意向を確認の上、「冷凍シジミ」の出荷割合を増やし、年間50トン製造・販売を目指す。これにより漁業所得基準年の10%向上を目指す。そのため、シジミ漁業者と十三漁協は以下取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者は「冷凍シジミ」の品質保持を向上させるため、十三漁協と協力し「シジミ選別」講習会を開催・受講し、シジミの死貝や空貝について貝の色等による識別方法等を習得・向上させることにより、効率かつ確実な選別作業に努める。 ・十三漁協は新たに導入した金属探知機とX線装置を使用し、更なる「冷凍シジミ」の品質保持向上と選別作業の効率化に努める。 ・十三漁協は冷凍シジミの「砂出し」作業を行う際には、シジミのうまみ成分等を保持するため、新たに考案した蓄養海水（殺菌海水と真水の混合水（塩分濃度1%））を使用し、「砂出し」作業中の酸欠やシジミの排泄物（アンモニア）によるシジミのへい死を防ぐため、新たに考案した網目状の容器（網やザル等）を使用することで「砂出し」作業の効率かつ確実な手法の構築を図る。 <p>②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」漁業との理由で「マリン・エコラベル・ジャパン」からの認証を受けていることを消費者にPRしていくことで更なる消費拡大を図るべく、定めた販売戦略に基づき、以下に示すシジミの資源維持・管理やブランド化、販売促進と地域活性化の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者と十三漁協は（地独）青森県産業技術センター内水面研究所や西北地域県民局地域農林水産部鱈ヶ沢水産事務所の協力得て、十三湖のシジミ資源量調査や十三湖の水質・底質調査、シジミラーバ調査を実施し、シジミの漁獲を調整することにより資源維持・管理に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は湖底耕運作業や湖底清掃、シジミ移植作業を実施し、十三湖の環境保持に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は県内外のスーパーや生協等での「トレーサビリティシステム」と「マリン・エコラベル」の説明会や地元学校での食育活動、都市住民との交流会を積極的に実施し、十三湖産シジミのブランド化と販売促進に努める。 ・十三漁協は県漁連や県関係機関と連携し、シジミの販売促進のため県内外のスーパーや生協、東京都や新潟市、仙台市、札幌市等の中央卸市場へ出荷・販売を積極的に実施し、販路拡大を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノットの減速走行、省エネ機器設備（エンジン）の導入により、基準年の26%燃油削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器設備導入支援事業</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①シジミ漁業者と十三漁協は継続して消費者ニーズの把握に努めつつ荷受業者等の意向を確認の上、「冷凍シジミ」の出荷割合を増やし、年間50トン製造・販売を目指す。これにより漁業所得基準年の10%向上を目指す。そのため、シジミ漁業者と十三漁協は以下取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者は「冷凍シジミ」の品質保持を向上させるため、「シジミ選別」講習会で得たシジミの死貝や空貝についての貝の色等による識別方法の習得により、継続的に効率かつ確実な選別作業に努める。 ・十三漁協は継続して金属探知機とX線装置を使用し、更なる「冷凍シジミ」の品質保持向上と選別作業の効率化に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は、冷凍シジミの「砂出し」作業行う際に、新たに考案した蓄養海水（殺菌海水と真水の混合水（塩分濃度1%））を活用することでシジミのうまみ成分等の保持に努めるとともに、網目状の容器（網やザル等）を使用することにより、「砂出し」作業中の酸欠やシジミの排泄物（アンモニア）によるシジミのへい死の抑制に努める。 <p>②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」漁業との理由で「マリン・エコラベル・ジャパン」からの認証を受けていることを消費者にPRしていくことで更なる消費拡大を図るべく、定めた販売戦略に基づき、以下に示すシジミの資源維持・管理やブランド化、販売促進と地域活性化の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者と十三漁協は（地独）青森県産業技術センター内水面研究所や西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所の協力得て、十三湖のシジミ資源量調査や十三湖の水質・底質調査、シジミラーバ調査を実施し、シジミの漁獲を調整することにより資源維持・管理に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は湖底耕運作業や湖底清掃、シジミ移植作業を実施し、十三湖の環境保持に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は県内外のスーパーや生協等での「トレーサビリティシステム」と「マリン・エコラベル」の説明会や地元学校での食育活動、都市住民との交流会を積極的に実施し、十三湖産シジミのブランド化と販売促進に努める。 ・十三漁協は県漁連や県関係機関と連携し、シジミの販売促進のため県内外のスーパーや生協、東京都や新潟市、仙台市、札幌市等の中央卸市場へ出荷・販売を積極的に実施し、販路拡大を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノットの減速走行、省エネ機器設備（エンジン）の導入により、基準年の26%燃油削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

4 年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①シジミ漁業者と十三漁協は継続して消費者ニーズの把握に努めつつ荷受業者等の意向を確認の上、「冷凍シジミ」の出荷割合を増やし、年間50トン製造・販売を目指す。これにより漁業所得基準年の10%向上を目指す。そのため、シジミ漁業者と十三漁協は以下取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者は「冷凍シジミ」の品質保持を向上させるため、「シジミ選別」講習会で得たシジミの死貝や空貝についての貝の色等による識別方法の習得により、継続的に効率かつ確実な選別作業に努める。 ・十三漁協は継続して金属探知機とX線装置を使用し、更なる「冷凍シジミ」の品質保持向上と選別作業の効率化に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は、冷凍シジミの「砂出し」作業行う際に、新たに考案した蓄養海水（殺菌海水と真水の混合水（塩分濃度1%））を活用することでシジミのうまみ成分等の保持に努めるとともに、網目状の容器（網やザル等）を使用することにより、「砂出し」作業中の酸欠やシジミの排泄物（アンモニア）によるシジミのへい死の抑制に努める。 <p>②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」漁業との理由で「マリン・エコラベル・ジャパン」からの認証を受けていることを消費者にPRしていくことで更なる消費拡大を図るべく、定めた販売戦略に基づき、以下に示すシジミの資源維持・管理やブランド化、販売促進と地域活性化の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者と十三漁協は（地独）青森県産業技術センター内水面研究所や西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所の協力得て、十三湖のシジミ資源量調査や十三湖の水質・底質調査、シジミラーバ調査を実施し、シジミの漁獲を調整することにより資源維持・管理に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は湖底耕運作業や湖底清掃、シジミ移植作業を実施し、十三湖の環境保持に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は県内外のスーパーや生協等での「トレーサビリティシステム」と「マリン・エコラベル」の説明会や地元学校での食育活動、都市住民との交流会を積極的に実施し、十三湖産シジミのブランド化と販売促進に努める。 ・十三漁協は県漁連や県関係機関と連携し、シジミの販売促進のため県内外のスーパーや生協、東京都や新潟市、仙台市、札幌市等の中央卸市場へ出荷・販売を積極的に実施し、販路拡大を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノットの減速走行、省エネ機器設備（エンジン）の導入により、基準年の26%燃油削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

5年目（平成30年度）

取組の最終年度であり、前年度に引き続き行いが、目標達成を確実なものとするよう、プラン取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①シジミ漁業者と十三漁協は継続して消費者ニーズの把握に努めつつ荷受業者等の意向を確認の上、「冷凍シジミ」の出荷割合を増やし、年間50トン製造・販売を目指す。これにより漁業所得基準年の10%向上を目指す。そのため、シジミ漁業者と十三漁協は以下取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者は「冷凍シジミ」の品質保持を向上させるため、「シジミ選別」講習会で得たシジミの死貝や空貝についての貝の色等による識別方法の習得により、継続的に効率かつ確実な選別作業に努める。 ・十三漁協は継続して金属探知機とX線装置を使用し、更なる「冷凍シジミ」の品質保持向上と選別作業の効率化に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は、冷凍シジミの「砂出し」作業を行う際に、新たに考案した蓄養海水（殺菌海水と真水の混合水（塩分濃度1%））を活用することでシジミのうまみ成分等の保持に努めるとともに、網目状の容器（網やザル等）を使用することにより、「砂出し」作業中の酸欠やシジミの排泄物（アンモニア）によるシジミのへい死の抑制に努める。 <p>②シジミ漁業者と十三漁協は十三湖産シジミの信頼性・安全性を確保する「トレーサビリティ・システム」を基軸に「水産資源と湖にやさしい」漁業との理由で「マリン・エコラベル・ジャパン」からの認証を受けていることを消費者にPRしていくことで更なる消費拡大を図るべく、定めた販売戦略に基づき、以下に示すシジミの資源維持・管理やブランド化、販売促進と地域活性化の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者と十三漁協は（地独）青森県産業技術センター内水面研究所や西北地域県民局地域農林水産部鯉ヶ沢水産事務所の協力得て、十三湖のシジミ資源量調査や十三湖の水質・底質調査、シジミラーバ調査を実施し、シジミの漁獲を調整することにより資源維持・管理に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は湖底耕運作業や湖底清掃、シジミ移植作業を実施し、十三湖の環境保持に努める。 ・シジミ漁業者と十三漁協は県内外のスーパーや生協等での「トレーサビリティシステム」と「マリン・エコラベル」の説明会や地元学校での食育活動、都市住民との交流会を積極的に実施し、十三湖産シジミのブランド化と販売促進に努める。 ・十三漁協は県漁連や県関係機関と連携し、シジミの販売促進のため県内外のスーパーや生協、東京都や新潟市、仙台市、札幌市等の中央卸市場へ出荷・販売を積極的に実施し、販路拡大を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>シジミ漁業者は燃油高騰に対応するため、船底・舵・プロペラ等の清掃と船速1ノットの減速走行、省エネ機器設備（エンジン）の導入により、基準年の26%燃油削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

十三地区地域水産業再生委員会事務局である十三漁協を中心に、青森県農林水産部水産局水産振興課・総合販売戦略課、西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所、五所川原市経済部農林水産課水産室・教育委員会、(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所・内水面研究所・食品総合研究所、青森県漁業協同組合連合会との連携を強化する。また、県内外の流通、販売業者等とも新たな連携を図る。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	直近3ヶ年の平均 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省エネ機器導入推進事業	環境対応型漁船用エンジンの省エネ機器を導入することにより、消費燃料の削減。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。